

もしも ○○ が □□ だったら？

Design in Parallel Worlds

FY2026 メディアデザインゼミ：Design in Parallel Worlds

「あたりまえ」という感覚や価値観は、いまある問題を再生産してしまうバイアスになったり、オルタナティヴを検討するうえでの障害になってしまうことがあります。そのような状態から逃れるため、現在ではなく過去から、「あり得たかもしれない現在」や「あり得るかもしれない未来」に目を向けてみます。

課題文：「もしも、◯◯が□□だったら？」

もしも歴史上の人物が、異なる世界線で、異なる職業や立場だったら？
どのようなデザイン、テクノロジー、文化が育ち、どのような価値や問題が生まれているでしょうか？
現代で「あたりまえ」とされていることを揺さぶるコンテンツを構想し、それに適したメディアを考えて作品を制作・展示してください。

4 The Pop Times
もしも〈ロイ・リキテンスタイン〉が〈グラフィックジャーナリスト〉だったら？
池田 いぶき

6 Chanel de Versailles
もしも〈ココ・シャネル〉が〈ルイ 16 世の王妃〉だったら？
石川 美南

8 **ファーブル文様録**
もしも〈ジャン・アンリ・ファーブル〉が〈日本の文様職人〉だったら？
伊藤 真生子

10 **卒業文集**
もしも〈ヨーゼフ・ゲッベルス〉が〈小学校教諭〉だったら？
岡田 董

12 Limited Disney
もしも〈ウォルト・ディスニー〉が〈リミテッド・アニメーションを採用した世界〉だったら？
小此木 奏祐

14 **五輪家——宮本武蔵の生存住宅論**
もしも〈宮本武蔵〉が〈現代の建築家〉だったら？
小野寺 詩

16 『ARCHITECT——Kansuke Yamamoto』
もしも〈山本勘助〉が〈現代の建築家〉だったら？
片山 彩名

18 E=mc²=
もしも〈アルベルト・アインシュタイン〉が〈マンハッタン計画の化学班最高責任者〉だったら？
川畑 祐人

20 **水木しげる植物全集**
もしも〈水木しげる〉が〈植物学者〉だったら？
菊池 陸友

22 **新たな女性像**
もしも〈オードリー・ヘプバーン〉が〈ボンドガールとしてブレイク〉していたら？
塩谷 果保

24 OBLIVION OS
もしも〈皇帝ネロ〉が〈UI/UX デザイナー〉だったら？
島田 悠生

26 **有松ネオ・モダニズム**
もしも〈アントニ・ガウディ〉が〈絞り染め職人〉だったら？
清水 茉友・桝田 真帆

28 **みんな と わたし**
もしも〈金子みすゞ〉が〈現代の初等教育者〉だったら？
鈴木 友菜

30 **科学者とニュータウンのはなし**
もしも〈寺田寅彦〉が〈アーバン・デザイナー〉だったら？
髙田 多朗

32 BushidOS
もしも〈新渡戸稲造〉が〈スマホの設計者〉だったら？
髙橋 晴

34 **ルートヴィヒ 2 世——存在しない城の王**
もしも〈ルートヴィヒ 2 世〉が〈芸術家〉だったら？
田中 千翔

36 Kumagusu Map
もしも〈南方熊楠〉が〈ナビゲーター設計者〉だったら？
田中 創

38 **走る茶室**
もしも〈千利休〉が〈鉄道車両デザイナー〉だったら？
廣瀬 未空

40 KYOMEI
もしも〈出雲阿国〉が〈現代のシステム設計者〉だったら？
山川 怜子

42 **一刻城について——模型と解説**
もしも〈藤堂高虎〉が〈コンクリートの名手〉だったら？
山田 健介

44 **茶象学**
もしも〈蔡章献(さい しょうけん)〉が〈占茶術師〉だったら？
ヨウ イクショウ

46 UNSAID
もしも〈紫式部〉が〈ブランドデザイナー〉だったら？
藁谷 美友

50 参考文献

The Pop Times

もしも ロイ・リキテンスタイン が
グラフィックジャーナリスト だったら？

新聞は、時代を記録するメディアである。しかしその記録は、常に誰かの視点によって編集され、デザインされてきた。何を伝え、何を省略し、どのような言葉やイメージで届けるのか。その選択は、私たちの出来事の理解や記憶を形づくっている。

『The Pop Times』は、リキテンスタインがグラフィックジャーナリストとなった世界を想像した架空の新聞である。漫画のコマや吹き出し、ベンデイドット、原色によって、ニュースは事実ではなく感情を伴うイメージとして届けられる。月面着陸は歓喜のポスターに、戦争は劇的なスペクタクルに描き変えられ、複雑な現実は一瞬で理解できる物語となる。情報を素早く受け取れることは便利である一方で、「考えること」はどこへ行くのだろう。

「わかりやすいデザイン」は本当に良いデザインなのか。

私たちはニュースを理解しているのか、それとも“感じさせられている”だけなのか。

池田 いぶき





Chanel de Versailles

もしも ココ・シャネル が
ルイ16世の王妃 だったら？

当時のフランス宮廷では、コルセットや豪華な装飾、大きく広がるドレスが女性の理想像として浸透していた。一方、ココ・シャネルは身体を束縛する服装から女性を解放し、機能性とシンプルさを重視した新しい美意識を生み出した。本作品では、もしシャネルが王妃だったなら、当時のファッションや価値観はどのように変化していたのかを「ファッション誌」として表現した。彼女はコルセットやパニエ、クリノリンを廃止し、動きやすい衣服を王宮へ広めた。その影響は民衆にも及び、女性の狩猟やフェンシングへの参加、舞踏会用ドレスの軽量化によるダンス文化の変化を生み出した。さらに「リトル・ブラック・ドレス」は、黒服の印象を喪服から美しさの象徴へと変え、新たな流行を築いた。価値観が変われば、人は昨日まで選ばなかった服を着るようになる。本作品を通して、「人は服を着ているのか、価値観を着ているのか」を問う。

石川 美南



ファーブル文様録

もしも ジャン・アンリ・ファーブル が
日本の文様職人 だったら？

本作品は、「もしジャン・アンリ・ファーブルが日本に生まれ、昆虫学者ではなく文様職人として活動していたら」というテーマから生まれた文様集である。現在の日本の伝統文様には、蝶や蜻蛉など縁起の良い意味を持つ生き物が用いられるが、その意味の多くは見た目の美しさや古くからの伝承に由来する。そこで私は、昆虫を徹底的に観察し続けたファーブルの視点が日本の文化に入り込んでいたならば、異なる価値基準による文様文化が生まれていたのではないかと考えた。ファーブルは『昆虫記』の中で、虫を単なる標本ではなくそれぞれ固有の生き方を持つ存在として記録している。本作品ではその観察記録を手がかりに、虫や菌類の生態から新たな縁起を読み取り、文様として再構築した。現代の縁起や象徴の成り立ちを問い直し、観察から生まれる新たな解釈の可能性を通して、文化や価値観は別の形になり得たのではないかという視点を提案する。

伊藤 真生子





卒業文集

もしも ヨーゼフ・ゲッベルス が
小学校教諭 だったら？

ナチス・ドイツの宣伝大臣として、プロパガンダの天才と称されたヨーゼフ・ゲッベルス。この作品は、彼の才能が小学生という最も無防備な年齢にどう機能するかを、フィクションの卒業文集として描く。
宣伝大臣の手法は、国民全体に向けて行われた。担任教師の手法は、20人という閉じた集団の中で、より高い密度で反復される。学級担任は、政治家よりも長い時間、対象者に接触できる立場にある。
卒業後も教師からかけられた言葉が、本人の中に残り続ける。
政治家の操作は歴史になる。教師の操作は、生徒自身の価値観になる。卒業しても、その作られた価値観から逃れることはできない。

あなたの中の思想はどこまで自分の意志で、
どこからが設計されたものか？

岡田 董



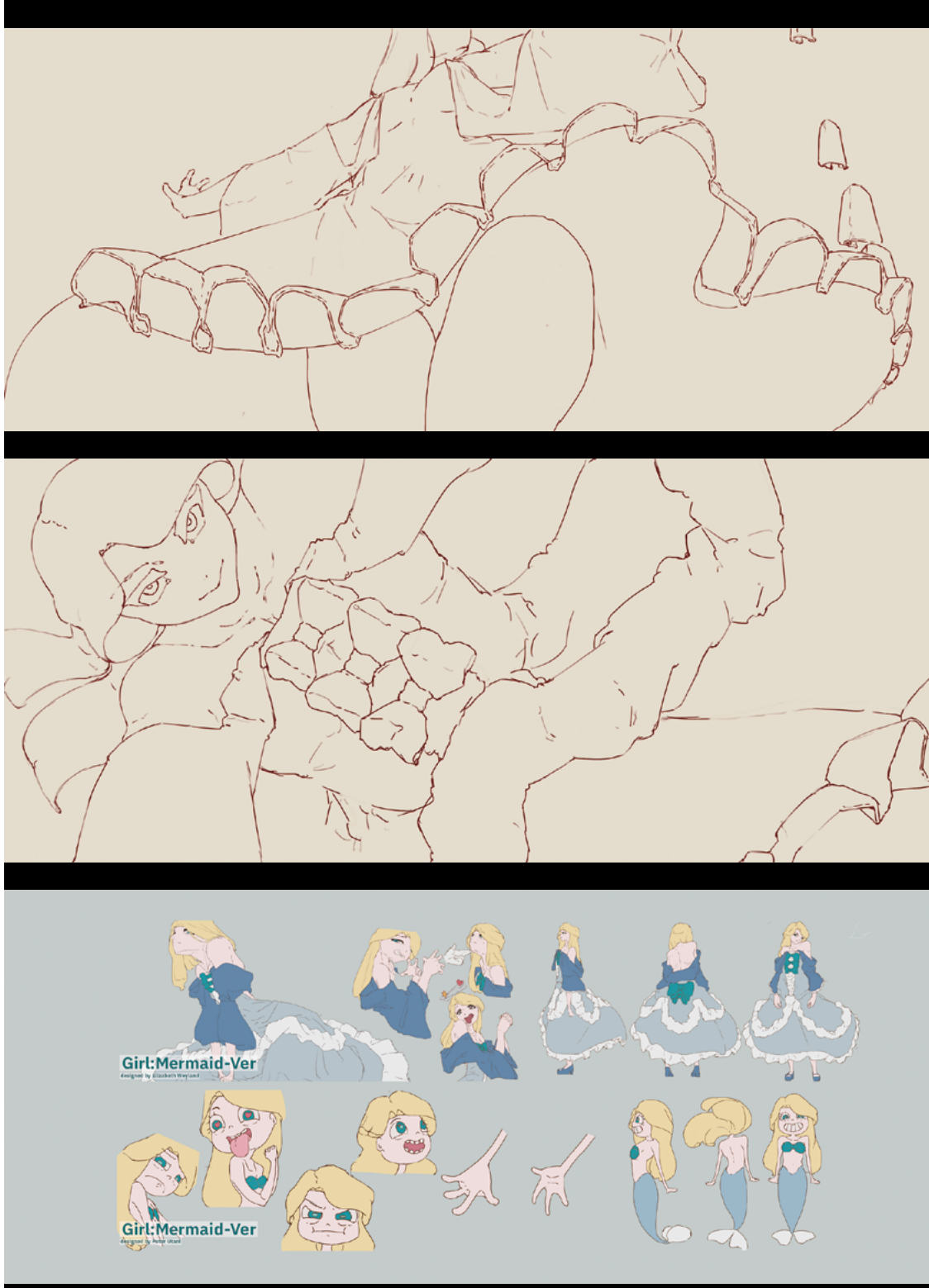


Limited Disney

もしも ウォルト・ディズニー が
リミテッド・アニメーションを採用した世界 だったら？

日本アニメとウォルトディズニー社のアニメの最大の違いのひとつがフレームレートである。これは「1秒間に何回画面が動くか」ということを表したものである。ディズニー社は1秒間のアニメを作るのに24枚の絵を描いている。しかし1秒に24枚のアニメーションは非常に制作費が高価である。これはアメリカ資本の莫大なバジェットがあるからこそ実現できる芸当であり、アメリカからアニメを学んだ日本の制作会社に同じことはできない。そこで日本アニメは、1秒あたりの枚数が8枚から12枚ほどに変動する方法論を生み出した。また作画枚数の少なさを逆手に取り、それをフックにリアルな動きを人間の生理的な気持ちよさに最適化してデフォルメしたことで、現在のアニメ大国の地位を築き上げたのである。そこで私は、この動きのデフォルメ技術を身につけたディズニーというものがどんなものか気になった。この疑問を主観的かつ個人的な嗜好とエゴで包んだ結石がこれらの作品である。

小此木 奏祐



五輪家——宮本武蔵の生存住宅論

もしも 宮本武蔵 が 現代の建築家 だったら？

宮本武蔵が剣豪ではなく、現代の建築家だった世界線を想定し、その社会で流通している住宅資料を制作した。
この世界では、住宅は富や成功を示すものではなく、犯罪や災害から生活を守る基盤として評価される。開放感や意匠性や所有者のステータスを重視した家よりも、有事に生き残れる安全な家を持つことが、合理的で誇るべき価値観として一般化されている。
『五輪書』にみられる宮本武蔵の思想は、装飾や形式への執着ではなく、状況を観察し、無駄を削ぎ、生き残るために必要な構造を見極めるものである。その兵法的合理性を、住宅の構造・設備計画へと翻訳し、あらゆるパターンの犯罪・災害に対応する設計を施した。
現実の現代住宅がしばしば「魅せる豊かさ」へ向かうのに対し、五輪家は、住まいをステータスではなく生き延びるための陣地として捉え直す試みである。

小野寺 詩



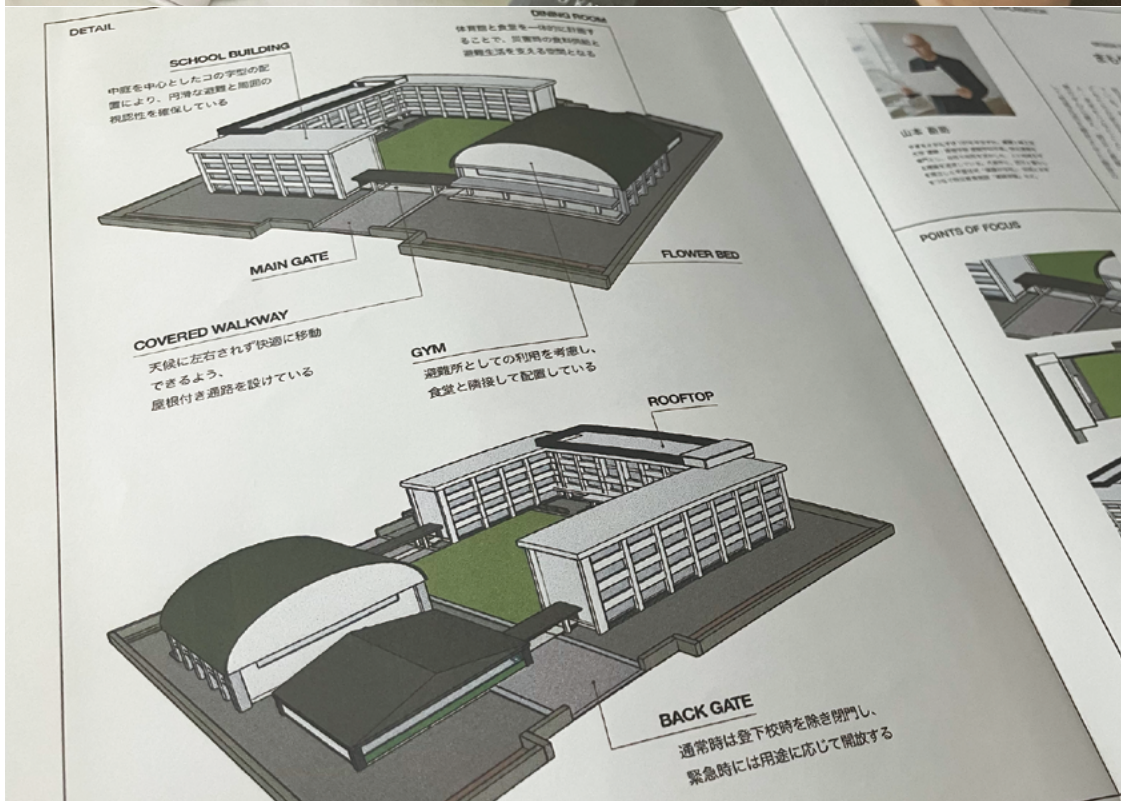
『ARCHITECT
Kansuke Yamamoto』

もしも 山本勘助 が
現代の建築家 だったら？

山本勘助は戦国時代に武田信玄に仕えた軍師であり、武田二十四将の一人として知られる兵法家である。築城術にも優れ、地形を活かした防御重視の城づくりを得意とした。
本計画では、その思想を現代建築へ応用し、「防御」を暮らしの「まもり」として再解釈した。敵を自然災害に置き換え、地形や自然環境を活かした防災建築を提案している。建築雑誌『ARCHITECT Kansuke Yamamoto』は、山本勘助を現代の建築家として紹介する架空の特集誌である。建築家を意味する「ARCHITECT」を誌名に採用。誌面では、防災住宅と防災学校を中心に、設計思想や図面、作品解説、山本勘助の紹介をインタビュー記事風に構成した。住宅は暮らしを守る場として、学校は災害時に多くの人を守る避難所としての役割に着目し、日本で頻発する地震や台風、豪雨などの災害に対応する「人を守る建築」をテーマに制作した。これらの作品を通して、「人を守るための空間づくり」という設計思想を表現している。

片山 彩名





$E=mc^2=$

もしも アルベルト・アインシュタイン が
マンハッタン計画の化学班最高責任者 だったら？

アインシュタインが示した$E=mc^2$、わずかな質量が莫大なエネルギーに相当することを示している。この式が示した関係は、その後、兵器に応用され歴史に大きな恐怖と教訓を焼き付けた。もし、平和を訴え続けたアインシュタインが兵器開発の意思決定を担っていたら、爆弾として生まれた力は人々の暮らしを支えるために使われていただろうか。
本作が提示するのは原子力によって問題が解決された理想社会ではない。歴史上の決定者を置き換えることで一つの科学的発見が社会の中でどのような意味を与え、どの様に世界に影響を及ぼすかを捉え直すためのものである。質量を持つものがすべてが、エネルギーに相当するのなら私たちは日々、地球を構成するどれほどの物質を消費しながら生きているのだろうか。そして技術は、私たちの消費や破壊を拡大させるだけのものなのか、別の生き方を可能にするのか、考えるきっかけになれば嬉しく思う。

川畑 祐人







水木しげる植物全集

もしも 水木しげる が
植物学者 だったら？

水木しげるは妖怪漫画家として広く知られています。その創作の原点には、幼少期に近所に住んでいた「のんのんばあ」から妖怪の話を聞いて育った経験がありました。
本作品では、その体験を「植物の話を聞いて育った」という架空の設定へ置き換え、「もし、水木しげるが植物学者になっていたら」というもうひとつの人生を描いています。
この世界の水木しげるは、幼い頃から不思議な植物の話に魅了され、植物を研究する道へ進みます。戦争体験によって培われた生命への深いまなざしや、ユーモアに満ちた発想、人間社会を見つめる独特の価値観は、彼が記録する植物にも色濃く反映されています。図鑑に登場する植物は、感情を読み取ったり、人の暮らしに寄り添ったり、ときには人間の愚かさや優しさを映し出したりするなど、どこか奇妙でありながら温かみを感じさせる存在として描かれています。

菊池 陸友



新たな女性像

もしも オードリー・ヘプバーン が
ボンドガールとしてブレイク していたら？

本作品は、「もしもオードリー・ヘプバーンが現代のボンドガールだったら？」という仮定のもと制作したWebメディアである。単にオードリー・ヘプバーンを現代に登場させるのではなく、現代社会において新たな女性像を提示することをテーマとした。
従来のボンドガールは「守られる女性」として描かれることが多く、近年ではその反動として「強さを前面に押し出す女性像」が増加している。しかし本作品ではそのどちらにも当てはまらない、自分自身の価値を理解し、余裕と品格を持ちながら周囲に影響を与える女性を描いている。ボンドガールの衣装にはシャンパンゴールドのドレスを設定し、スパイの世界の中で静かに輝く存在として表現するものとしている。本作品を通して、時代を超えて愛されるオードリー・ヘプバーンの魅力を現代的な価値観の中で再解釈し、映画とファッションが融合したメディア作品を目指している。

塩谷 果保



OBLIVION OS

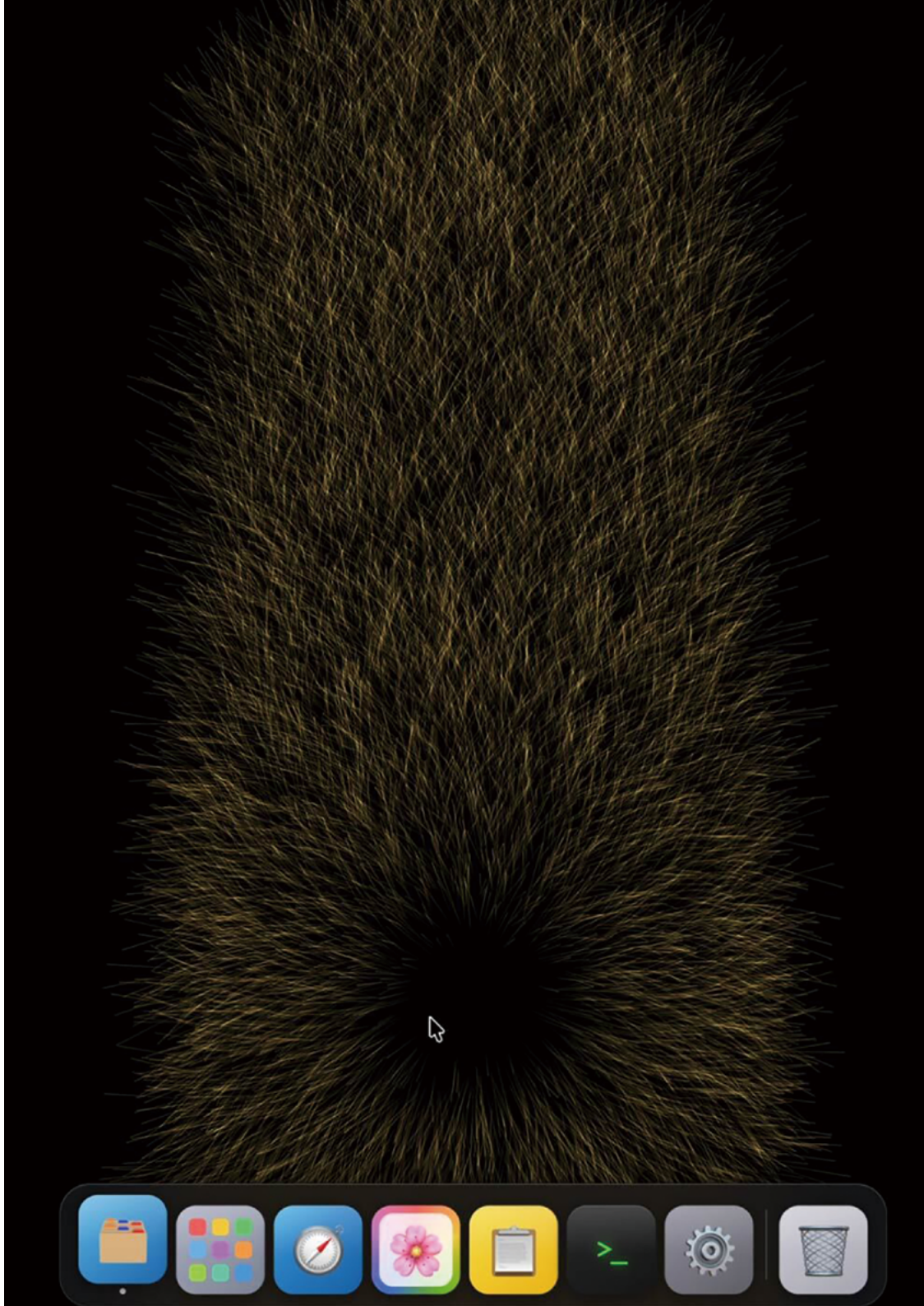
もしも 皇帝ネロ が
UI/UXデザイナー だったら？

現代のパソコンのゴミ箱は、一瞬でファイルを消せて、すぐ元に戻せます。取り返しがつくから、私たちは「本当に消していいのか」と迷わずに済む。結果、見返さない写真も、途中で止まったファイルも、消さないまま溜め続けています。私たちはもう、何も終わらせていません。

この作品は、ローマが燃えるのを眺めて楽しみ、自分の死さえ最後の見せ場にした皇帝ネロが、もしOSを作ったら、という想像から生まれた架空のOSです。ネロにとって終わりは、隠すものではありませんでした。人に見られて、美しく、もう取り消せないもの。そういう終わりでなければならなかったのです。

だからこのOSでは、保存とは、いつ葬るかを宣言することです。すべてのファイルは寿命を持って生まれ、放置された記憶は、静かに朽ちるのではなく、終わりを求めてきます。そして削除は、隠されず、見届けられ、二度と戻らない儀式になります。

島田 悠生



有松ネオ・モダニズム

もしも アントニ・ガウディ が 絞り染め職人 だったら？

建築家アントニ・ガウディの活動していた時代は、「カタルーニャ・モダニズム」という運動が活発だった。カタルーニャ地方の近代都市化が進む中で、職人文化などの地域の特徴を活かしながら、今までにない素材や意匠を取り込み近代化を進める芸術運動である。
もし、ガウディが建築家ではなく、現代日本で活動していたら。現代日本版カタルーニャ・モダニズムとして、伝統と最新技術を融合させた作品の制作を試みる。
私たちが目をつけたのは愛知県名古屋市有松の伝統工芸、有松絞りだ。そして最新の技術として利用するのは、パターン制作と相性の良い現代のコンピュータプログラミング。この２つを組み合わせることで新しいものづくりができるのではないか。
これらの伝統工芸と最新技術を組み合わせた作品を制作することを、新しいものづくり運動「有松ネオ・モダニズム」と名づけた。

清水 茉友　　桝田 真帆






```
        }

        attempts += 1;
    }

    whiteDots = placedDots;
    whiteConnections = createWhiteConnect
}

function createWhiteConnections(dots) {
    const connections = [];
    const degrees = new Map();
    const candidatePairs = [];

    for (let i = 0; i < dots.length; i +=
        for (let j = i + 1; j < dots.leng
            candidatePairs.push({
                a: dots[i],
                b: dots[j],
                distance: dist(dots[i].x,
            });
        }
    }

    candidatePairs.sort((left, right) =>

    for (const pair of candidatePairs) {
        const degreeA = degrees.get(pair.
        const degreeB = degrees.get(pair.

        if (degreeA >= 4 || degreeB >= 4)
            continue;
        }

        const crossesExistingLine = conne
            segmentsIntersect(pair.a, pai
        );
```

みんな と わたし

もしも 金子みすゞ が 現代の初等教育者 だったら？

親権が父親にしかなかった昭和初期。童謡詩人の金子みすゞは、離婚の際に愛娘を夫へ渡さなければならない事実に苦しんだ。苦しみに耐えきれず娘を引き渡した後、自死を選ぶ。夫へ「あなたがふうちゃん（愛娘）に与えられるのはお金であり、心の糧ではありません。」と遺言を残している。柔らかくも鋭いまなざしで世界を捉えていたみすゞは、自身のまなざしが、子供が成長する上で心の糧になると理解していたようだ。みすゞの言う「心の糧」とは何だったのだろうか。みすゞの詩には「私と小鳥と鈴と」「土」「積もった雪」など、自然やモノを通して人の世を見つめている作品が多い。これらの作品からは「みんなそれぞれの考えや生き方がある」という思想が読み取れる。世界を多様な視点で捉え、様々な価値観に触れ、自分自身の世界を広げていくこと。それが、みすゞの言う「心の糧」だったのではないかと考えた。みすゞが昭和初期の童謡詩人ではなく、現代の初等教育者だったら「心の糧」をより多くの子供たちに届けられただろうか。

鈴木 友菜



科学者とニュータウンのはなし

もしも 寺田寅彦 が
アーバン・デザイナー だったら？

明治から昭和にかけて活躍した物理学者・随筆家、寺田寅彦による著作とその思考を介して、ニュータウンという都市の在り方、そのオルタナティブな姿を考えるエッセイ。「天災は忘れたころにやってくる」などの言葉に代表される、寺田の先見的な論考はそれから100年経った現在にも通ずるような、本質的な問いを投げかけている。役に立つか、便利かどうかといったことがものごとの判断基準となっていく現代において、日常に偏在する不思議を観察し、当たり前を疑う寺田の姿勢は、最も根源的で重要な科学の態度を示している。本作は寺田の思想とボトムアップ的な観察手法を通して、私が生まれ育った千葉ニュータウンという街を捉え直すことで、いまこの世界とは異なる世界の都市の在り方を模索する試みである。架空の世界のニュータウンを「NT′(ニュータウン・プライム)」と名付け、そこにアクセスするまでの思考の流れと、その都市で動くシステムや価値観を、エッセイと図表で表現する。

髙田 多朗

目次

序　NT′（ニュータウン・プライム）
一　急ぐ人、急ぐ道
二　ビルと涼風
三　天災と生きる街
終　あとがき

NT′（ニュータウン・プライム）



コピー・アンド・ペーストで作られたような、白い集合住宅が立ち並ぶ街。
直線的な道で区切られ、すみずみまで管理されている街。
都会で働く人間が、夜眠るために帰ってくる街。

――僕が生まれ育ったのはそんな街だった。

1970年代、千葉県北部で「千葉ニュータウン」という街の開発が始まった。
当時はまだ都内からのアクセスも悪く、草むらの生い茂る未開のフロンティアであった地域に、人口30万人規模の都市を新造しようという大計画だ。
千葉県の中心部からもけっこう離れているのに「千葉」ニュータウンという大胆な命名をされたこの街は、以降人口が伸び悩み、今では人口10万人程度の閑静なベッドタウンに落ち着いている。

その10万人のうちのひとりが、僕だ。
僕が生まれた2005年は、実家の周辺に住宅街や商業施設が建ち始めた頃だったと聞く。だから僕の幼少期はこの街の発展とともにあった。遊んでいた空き地にアパートが建ったり、次々とバイパス道路ができたりと、その変化をこの目で見てきた。といっても、依然として空き地は有り余っているし、道や建物も増え続けている。この街は半世紀が経った今でも、まだまだ未完成だ。

街というのは本来、その土地に人が定住することで始まる。しかしニュータウンというものはその逆で、街が先に造られ、あとから住民をあてがっていくことで形成されていく。だから、人が集まらなければ「街が失敗する」という、不思議なことが起こるのだ。千葉ニュータウンもその例のひとつで、巷では「ゴーストタウン」とか「明るい廃墟」などと揶揄されることも少なくはなかった。

それでも、僕はこの街がわりと好きだ。
多くの人が「原風景」と聞いて思い浮かべるような、田園や山々の景色が、僕にとっては真っ白なマンションや、整備された広すぎる歩道や、テナントを持て余したショッピングモールだった。都会と田舎のあわいにあって、住民の多くがよそ者で、冷たくも温かくもない。そういう土地で育ってきたという意識が、いまの僕をかたち作っているようにも思う。けれど、もし、この街の計画がもっと別の道を辿っていたら、どんな景色があってどんな人々が住んでいたのか、すこし気になったりもする。

話は変わって、僕が寺田寅彦という人物を知ったのは小学生のときだった。当時、筋金入りの科学少年であった僕に母が買ってきてくれた『科学と科学者のはなし』（岩波少年文庫、池内　了　編）というエッセイ集を読んだのがきっかけだ。科学者が書いた、しかも百年近く前の文章であるというのに、とても身近で分かりやすく、詩的で風情がある。今こうして文章を書いているのも、もとを辿ればこのエッセイ集を読んだことが全ての始まりであるようにも思える。

それから十年が経ったいま、寺田の言葉を今一度読み解いてみるとなるほど、現在の

BushidOS

もしも 新渡戸稲造 が スマホの設計者 だったら?

新渡戸稲造は、武士の生き方を通じて日本独自の道徳観を論じた『武士道』を著した日本の教育者である。著作や講演、学校の設立を通じて明治日本の教育に貢献した新渡戸は、「自分と向き合うこと」の大切さを説いていた。『武士道』の武士たちは、刀の扱いを通じて自己を律し、文化を育んできた。もし新渡戸が現代に生きていたら、現代の刀とも言えるスマホを扱いきれず、むしろ振り回されているような我々に喝を入れるに違いない。そこで、あえてスマホに制約を付加することで、スマホとの付き合い方を見つめ直すためのプロダクトとWebアプリを制作した。スマホは刀身に埋め込まれ、鞘から抜き出す長さを調節しながら操作する。UIはスクリーンから分離され、使用するアプリに応じてユーザー自らがシートを差し替えて使用する。刀身を完全に鞘から抜いても、中のスマホは使えないようになっている。一度刀を抜いてしまえば、決着が着くまで斬り合うしかなくなってしまうからだ。

髙橋 晴





ルートヴィヒ２世――存在しない城の王

もしも ルートヴィヒ２世 が
芸術家 だったら？

史実ではバイエルンの国王だったルートヴィヒ２世が、もしもパトロン側である国王ではなく、クリエイターだったらというテーマで制作した。
史実のルートヴィヒ２世は、国王という立場で権力も財力もあったので、莫大な予算がかかる城を無理やり建てることができたが、もしも国王という立場がなかったら実現することはできない。
ルートヴィヒ２世に国王という立場がなく、実現しない前提で建築を構想したら、史実のルートヴィヒ２世が手がけた建築よりも自由な発想で考えるのではないかと思う。
国王ではなく上級貴族の次男として誕生したルートヴィヒ２世がどのような人生を送ったのかという物語と、このルートヴィヒ２世が構想した建築のスケッチを、博物館の展示のようにまとめた。

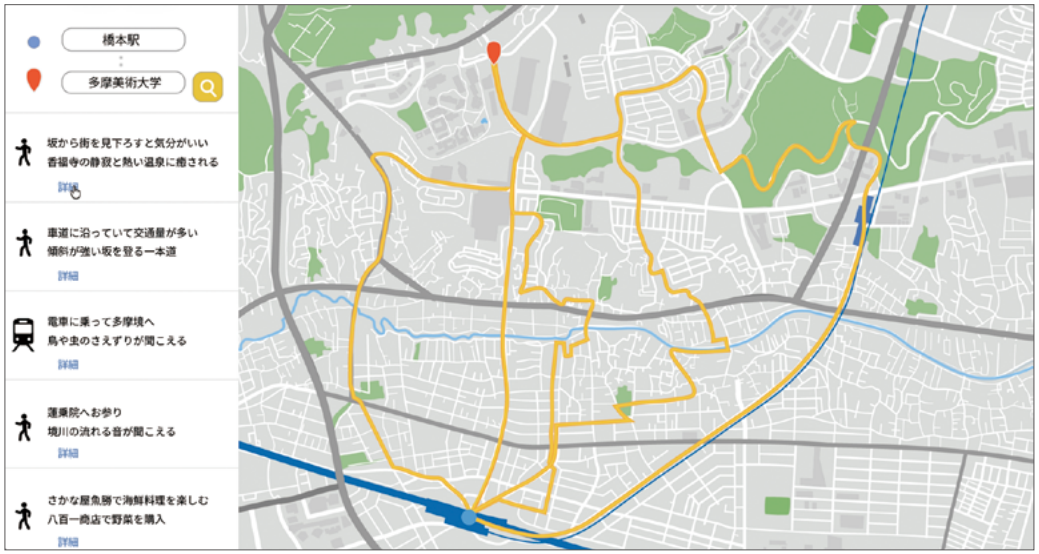
田中 千翔



Kumagusu Map

もしも 南方熊楠 が
ナビゲーター設計者 だったら？

現在の地図アプリは、最短距離や最短時間を基準にルートを提示し、移動を効率化します。しかし、そうした単一の尺度による案内は、街が持つ多様な関係性を見えにくくしているとも考えられます。粘菌は、湿度・温度・光・化学物質など周囲の環境を敏感に感じ取り、自らにとって最適なネットワークを形成する生物です。この仕組みを参考に、木陰の多さ、人通りの感じ、商店街の賑わいといった普段の地図では扱われない環境情報を可視化し、複数のルートを提案します。発想の根底にあるのは、博物学者・南方熊楠の思想です。熊楠は粘菌研究を通じて、生物や自然を固定されたものではなく、多様な関係性によって成り立つネットワークとして捉えました。また、神社合祀に強く反対し、地域ごとの固有の文化や自然、人々のつながりが失われることを危惧していました。
感覚や価値観に沿った道を選びながら街を歩く体験を通して、多様な環境や関係性を再発見できると考えます。





田中 創

走る茶室

もしも 千利休 が
鉄道車両デザイナー だったら？

千利休は、戦国時代の豪華絢爛な価値観を否定し、不完全で素朴なものに本質的な美を見出したクリエイターです。彼が設計した二畳の茶室「待庵」は、身分や執着を捨てるための装置でした。刀を外さねば入れない「にじり口」は人々を平等に迎え入れ、計算された窓は景色を隠して柔らかな光だけを取り込み、客人が己の内面と向き合う空間を生み出しました。
この思想を現代の鉄道に落とし込むと、車両は喧騒から乗客を守る「走る茶室」となるでしょう。車内では「デジタルジャック」によりスマートフォンが一時的に機能を失い、情報とのつながりが静かに断たれます。現代の刀であるスマートフォンの力を封じることで、乗客は日常の執着から解放されます。窓は障子のように光だけを通す特殊素材で覆われ、柔らかな自然光が車内を満たします。外界から切り離された空間で、乗客は心地よい揺れに身を任せ、目の前の空間と己の心に静かに向き合うことができます。

廣瀬 未空

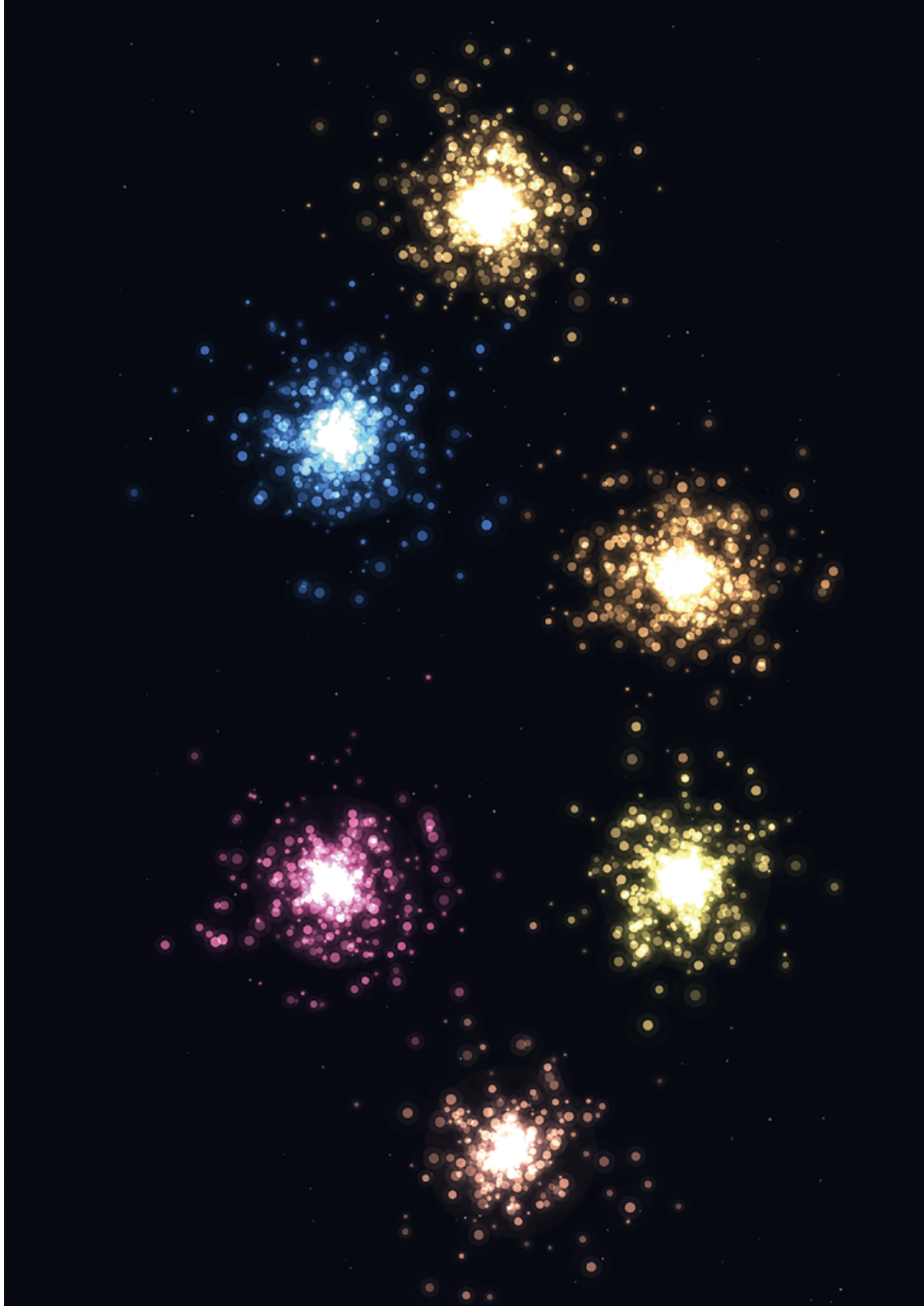


KYOMEI

もしも 出雲阿国 が
現代のシステム設計者 だったら？

出雲阿国は、それまで神に奉納される宗教的な芸能であった「ややこ踊り」を、多くの人々が参加し熱狂する「かぶき踊り」へと変換し、大衆文化として広めた人物である。
本作品では、その思想を現代のSNS文化へ翻訳し、宗教的な祈りを日常のコミュニケーションとして共有できるプラットフォームを提案する。ユーザーは日常の願いや感謝、不安などを投稿し、他者の祈りと共鳴・共有することで、これまで個人的で目に見えなかった祈りが可視化され、社会全体で同期される体験を生み出す。人々が互いの祈りや感情に触れることで、宗教を特別な信仰としてではなく、人と人をつなぎ、共感や一体感を生み出す文化として捉え直すことを目指した。また、現代のSNSが持つ「共有」や「共感」の仕組みを宗教的行為へ応用することで、阿国が人々に開いた新たな娯楽のように、祈りもまた誰もが自然に参加できる文化へと再構築することを試みている。

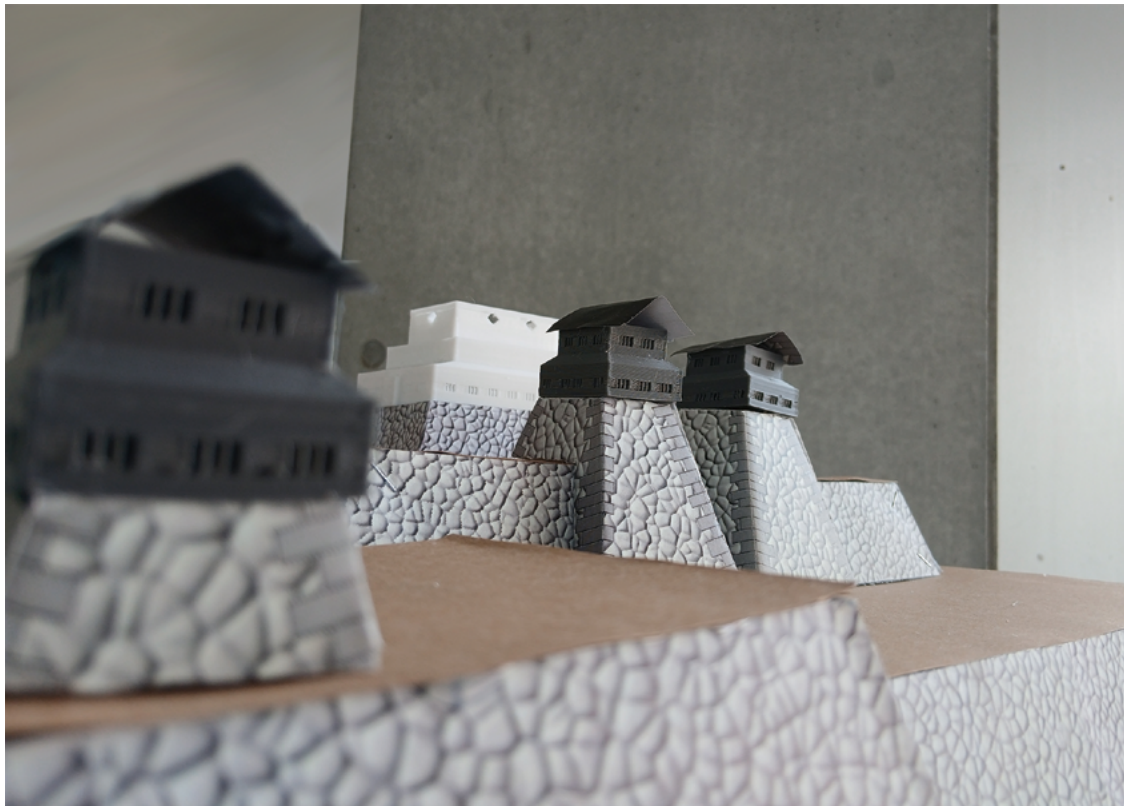
山川 怜子



一刻城について —— 模型と解説

もしも 藤堂高虎 が
コンクリートの名手 だったら？

もしも戦国時代に、コンクリート技術が誕生していたら、築城の名手・藤堂高虎はどのような城を築いただろうか？
コンクリートは、その並外れた強度と可塑性から「一刻石（いっこくいし）」と名付けられた。藤堂高虎はこの一刻石を積極的に取り入れ、一刻石を用い、城の強度を飛躍的に向上させた。
藤堂高虎の思考を読み取り、コンクリートがあった場合の城づくりを再構築した。コンクリートは漆喰の上位互換として解釈し、城の城壁に使用した。また、陣地構築が早くなるとすると、大砲を用いた戦闘が主流になる。その上でトーチカもできるとした。
コンクリートを手に入れた藤堂高虎の築城をご覧あれ。



山田 健介

茶象学

もしも 蔡章献（さい しょうけん） が
占茶術師（せんちゃじゅつし） だったら？

1938年の五惑合をきっかけに、台湾の占茶術師・蔡章憲は、茶葉の風味が天体の動きによって変化することを発見した。彼は東洋の陰陽思想と西洋占星術を結びつけ、後の茶象学の基礎を築いた。
1948年、現在「茶象元年」の始まりとされる年に、観測記録『茶象誌』が出版された。当時の惑星逆行と茶の風味の変化を記した手稿や、占茶術の規則などが収められている。これらの記録は後に発展し、今日に伝わる占茶術の基礎となった。
今日に至るまで、風味に影響する他の要因や、いまだ解明されていない記述についての研究は続けられている。
また、茶象は特別な儀式の中だけに存在するものではない。ニュースのテロップやSNSへの投稿など、私たちの日常はさまざまな茶象とつながっている。
さて、あなたも今日にふさわしい一杯を占ってみませんか。

ヨウ イクショウ





UNSAID

もしも 紫式部 が
ブランドデザイナー だったら？

『源氏物語』の作者である紫式部は、鋭い観察眼を持っている。人間の内側にある“言語化されることのない些細な感情”を描き出した。そこから着想を得て生まれたのが「UNSAID」である。現代に生きる私たちもまた、言えなかった気持ちや、飲み込んだ感情、まだ言葉にならない想いを抱えながら生きている。UNSAIDは、そうした“語られなかった感情”に焦点を当てたコスメブランドである。アイシャドウパレットは夜空に浮かぶ三日月をモチーフとし、夜になると瞼の裏に浮かぶ誰かを想う気持ちを表現した。リップは想いを保存する小瓶をイメージし、言葉にできなかった感情を鮮やかなまま閉じ込める。マスカラは一粒の雫をモチーフとし、誰にも気づかれず消えてゆく涙を表現した。それらは、言葉にならなかった感情の記録である。あなたの心にそっと寄り添う存在になりますように。

藁谷 美友








Design in
Parallel
Worlds
2026.7.
18"–19"


Design in
Parallel Worlds




Chanel de Versailles
Design in
Parallel
Worlds
住まいに、武蔵の安心を。

参考文献

《The Pop Times》

- Adelman, Bob. Roy Lichtenstein's ABC, Bulfinch Press, 1999.
- ジャニス・ヘンドリクソン［著］, ABC Enterprises Inc.［訳］,『ロイ・リキテンスタイン』, TASCHEN, 2002.
- Wilford, John Noble. “Men Walk on Moon: Astronauts Land on Plain, Collect Rocks, Plant Flag,” The New York Times, 1969-07-21. https://www.nytimes.com/1969/07/21/archives/men-walk-on-moon-astronauts-land-on-plain-collect-rocks-plant.html (accessed 2026-07-05)

《Chanel de Versailles》

- イザベル・フィメイエ［著］, ガブリエル・パラス=ラブリュニ［序文］, 鳥取絹子［訳］,フランシス・ハモンド［写真］,『素顔のココ・シャネル』, 河出書房新社, 2016.
- STUDIO JORNE［著］, 辻元よしふみ・辻元玲子［監修］, 猪川なと［訳］,『イラストでたどる西洋ファッション年表：ビザンツ帝国時代から20世紀初頭のモダンファッションまで』, ホビージャパン, 2025.
- 新人物往来社［編］,『王妃マリー・アントワネット』, 新人物往来社, 2010.

《ファーブル文様録》

- 濱田信義［編著］, 青人社［企画・構成］, 中田昭［写真］, 谷平理映子［デザイン］,『美しい日本の伝統色』, パイ インターナショナル, 2021.
- 藤井健三［監修］,『オールカラー改訂版 格と季節がひと目でわかる きものの文様』, 世界文化社, 2021.

《卒業文集》

- 平井正［著］,『ゲッベルス――メディア時代の政治宣伝』, 中央公論社, 1991.
- バスティアン・ハイン［著］, 若林美佐知［訳］,『ナチ親衛隊（SS）――「政治的エリート」たちの歴史と犯罪』, 中央公論新社, 2024.
- ブリンヒルデ・ポムゼル, トーレ・D・ハンゼン［著］,『ゲッベルスと私――ナチ宣伝相秘書の独白』, 紀伊國屋書店, 2018.
- 辻田真佐憲［著］,『たのしいプロパガンダ』, イースト・プレス, 2015.
- エマニュエル・ティエボ［著］,『［ヴィジュアル版］ヒトラーとプロパガンダ――ナチスと連合国のイメージ戦争』, 原書房, 2020.
- ヨアヒム・A・ラング［監督］,『ゲッベルス　ヒトラーをプロデュースした男』, ドイツ・スロバキア合作, 2024.

《Limited Disney》

- 「エヴァンゲリヲン新劇場版:Q」アニメーション原画集編集部［編］,『エヴァンゲリヲン新劇場版：Q アニメーション原画集 上巻』, グラウンドワークス, 2014.
- 庵野秀明・株式会社カラー［監修］,『エヴァンゲリヲン新劇場版：Q アニメーション原画集 下巻』, グラウンドワークス, 2014.
- 庵野秀明・株式会社カラー［監修］,『シン・エヴァンゲリオン劇場版 アニメーション原画集 上巻』, グラウンドワークス, 2022.

《五輪家――宮本武蔵の生存住宅論》

- アンソニー・ダン＆フィオナ・レイビー［著］, 久保田晃弘［監修］, 千葉敏生［訳］,『ここでもなく、いまでもない：スペキュラティヴな思考、不可能性、そしてデザインの想像力について』, BNN, 2026.
- 宮本武蔵［著］,「五輪書」,『日本古典文学摘集』, https://www.koten.net/gorin/ (accessed 2026-05-16)
- 宮本武蔵［著］, 城島明彦［訳］,『五輪書（いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ5）』, 致知出版社, 2012.
- 株式会社光栄堂,「建築学科の学生さん必見！スチレンボードで作る模型～入門編～初心者向けの扱い方・加工方法を解説！」, https://koeido.org/column/sutirennbo-do-mokei/ (accessed 2026-06-20)
- 三菱地所ホーム株式会社,「防犯設計」,『注文住宅のこだわり』, https://www.mitsubishi-home.com/custom-home/kodawari/bohan-sekkei/ (accsessed 2026-06-14)

《『ARCHITECT――Kansuke Yamamoto』》

- 株式会社富士住建,「平屋の魅力いくつ知ってる?『完全フル装備の家』」, https://www.fujijuken.co.jp/hirayalp/ (accessed 2026-07-08)
- 株式会社エクシエ,「知らないと損！災害に強い家を建てるための『間取り設計』5つの視点」, https://exie.co.jp/news/ (accessed 2026-07-08)
- フェアリィ・スクエア,「地震に強い平屋の間取り」, https://www.fairy-housing.net/info/hiraya-single-story-layout-designed-to-withstand-earthquakes/ (accessed 2026-07-08)
- ホームメイト（東建コーポレーション）,「山本勘助の歴史」,『戦国武将一覧』, https://www.touken-world.jp/tips/7484/ (accessed 2026-07-09)

《E=mc²=》

- アメリカ合衆国ホロコースト記念博物館,「1930年8月22日、ドイツ・ラジオ博覧会開会に際してのアインシュタインの演説（Einstein Speech on the Occasion of the Opening of the German Radio Exhibition, August 22, 1930）」, 資料番号: RG-60.4632, ドイツ連邦公文書館フィルムアーカイブ提供. https://collections.ushmm.org/search/catalog/irn1004136 (accessed 2026-07-13)
- Ford Motor Company, “Nucleon, a Glimpse into an Atomic-Powered Future,” brochure, 1958, Experimental and Concept Vehicles Product Literature Collection, The Henry Ford, Object ID 87.1.1707.5. https://www.thehenryford.org/collections/explore/artifact/403679 (accessed 2026-07-13)
- Haber, Heinz. The Walt Disney Story of Our Friend the Atom, Simon and Schuster, 1956.
- Hall, Loura. “Nuclear Thermal Propulsion: Game Changing Technology for Deep Space Exploration,” NASA, 2018-05-25. https://www.nasa.gov/directorates/stmd/tech-demo-missions-program/nuclear-thermal-propulsion-game-changing-technology-for-deep-space-exploration/ (accessed 2026-07-14)
- German History in Documents and Images, “Albert Einstein Speaks at the Opening of the Seventh German Radio Exhibition (August 22, 1930).” https://germanhistorydocs.org/en/weimar-germany-1918-1933/albert-einstein-speaks-at-the-opening-of-the-seventh-german-radio-exhibition-august-22-1930 (accessed 2026-07-13)

《水木しげる植物全集》
- 兵庫県立美術館,『ネットミュージアム兵庫文学館』, https://www.artm.pref.hyogo.jp/bungaku/ (accessed 2026-07-01)
- 筑波大学 生命環境学群 生物学類,「植物とは(What is plants?)」, https://www.biol.tsukuba.ac.jp/~algae/BotanyWEB/plant.html (accessed 2026-07-01)
- 鳥取県,「水木しげる先生」,『とりネット(鳥取県公式サイト)』, https://www.pref.tottori.lg.jp/291426.htm (accessed 2026-06-23)

《新たな女性像》
- ジョージ・キューカー[監督],『マイ・フェア・レディ』, Paramount Pictures, 1964, DVD.
- VOGUE JAPAN, https://www.vogue.co.jp/ (accessed 2026-07-07)
- FRONTROW, https://www.front-row.jp (accessed 2026-07-01)

《OBLIVION OS》
- スエトニウス[著], 国原吉之助[訳],『ローマ皇帝伝(下)』, 岩波書店(岩波文庫), 1986.
- Champlin, Edward. Nero, Belknap Press of Harvard University Press, 2003.

《有松ネオ・モダニズム》
- 田澤耕[著],『ガウディ伝――「時代の意志」を読む』, 中央公論新社, 2011.
- 入江正之[著],『もっと知りたいガウディ――生涯と作品』, 東京美術, 2014.
- フィリップ・ボール[著], 桃井緑美子[訳],『ビジュアル図鑑 自然がつくる不思議なパターン――なぜ銀河系とカタツムリは同じかたちなのか』, 日経ナショナルジオグラフィック社, 2016.
- 有松・鳴海絞会館,「有松絞りとは」, https://shibori-kaikan.com/tiedyeing (accessed 2026-07-13)

《みんな と わたし》
- 矢崎節夫[監修], 朝日新聞社文化企画局文化企画部[編],『幻の童謡詩人「金子みすゞの世界」展』, 朝日新聞社, 1999.
- 矢崎節夫[監修],『金子みすゞ――幻の童謡詩人の世界へ(別冊太陽 日本のこころ122)』, 平凡社, 2003.
- 大日本図書[編],『新版 たのしいせいかつ 上 だいすき』, 大日本図書, 2024.
- 大日本図書[編],『新版 たのしいせいかつ 下 ひろがれ』, 大日本図書, 2024.

《科学者とニュータウンのはなし》
- 寺田寅彦[著],「電車の混雑について」, 池内了[編],『科学と科学者のはなし:寺田寅彦エッセイ集』, 岩波書店, 2000.
- 寺田寅彦[著],「涼味数題」,『科学と文学』, 角川書店, 1948.
- 寺田寅彦[著],「天災と国防」, 山折哲雄[編],『天災と日本人:寺田寅彦随筆選』, 角川学芸出版, 2011.
- 寺田寅彦[著],「津浪と人間」、池内了[編],『科学と科学者のはなし:寺田寅彦エッセイ集』, 岩波書店, 2000.
- 寺田寅彦[著],「科学者とあたま」,『科学と文学』, 角川書店, 1948.
- 関根康人「科学者に見る2つのタイプ」,『三菱電機 DSPACE We are from Earth. アストロバイオロジーのすゝめ』, 三菱電機, https://www.mitsubishielectric.co.jp/me/dspace/astrobiology/19.html (accessed 2026-07-12)

《BushidOS》
- アンソニー・ダン&フィオナ・レイビー[著], 久保田晃弘[監修], 千葉敏生[訳],『ここでもなく、いまでもない:スペキュラティヴな思考、不可能性、そしてデザインの想像力について』, BNN, 2026.
- 新渡戸稲造[著], 矢内原忠雄[訳],『武士道』, 岩波書店(岩波文庫), 1938.
- 新渡戸稲造[著], 鈴木範久[編],『新渡戸稲造論集』, 岩波書店(岩波文庫), 2007.
- Special Projects Studio, "Envelope" 2020. https://specialprojects.studio/project/envelope/ (accessed 2026-07-13)

《ルートヴィヒ二世――存在しない城の王》
- 篠山紀信[撮影], 多木浩二[文],『王の夢・ルートヴィヒ2世』, 小学館, 1983.
- シュミット村木眞寿美[著],『ルートヴィヒ2世の生涯』, 河出書房新社, 2011.
- 鈴木博之[編], 鈴木博之・伊藤大介・高原健一郎・鈴木哲威・原口秀昭[著],『図説年表 西洋建築の様式』, 彰国社, 1998.
- 谷克二[著],『ドイツ・バイエルン州』, 日経BP企画, 2008.
- リヒャルト・ワーグナー[著], 高辻知義[訳],『ローエングリン』, 音楽之友社, 2011.

《Kumagusu Map》
- 岩田樹, 鈴木雅和[著],「都市緑地における変形菌(真性粘菌)の環境指標生物としての可能性」,『ランドスケープ研究』, 第71巻第5号, pp. 653-658, 日本造園学会, 2008.

《走る茶室》
- 岡倉覚三[著], 村岡博[訳], 大川裕弘[写真],『茶の本』, パイ インターナショナル, 2020.
- 谷崎潤一郎[著],『陰翳礼讃』, 中央公論新社, 1995.
- 赤瀬川原平[著],『千利休――無言の前衛』, 岩波書店(岩波新書), 1990.
- 心と茶室。,「茶道の聖典『南方録 覚書』とは? / 茶道思想と歴史的背景」, note, 2026-02-09. https://note.com/yoshitaka0115/n/n5a9a5276d320 (accessed 2026-7-13)

《KYOMEI》
- 服部幸夫[著],「出雲の阿国とその出身地と経歴――歌舞伎成立の研究史上の一齣を巡って――」,『語文論叢』第25号, pp. 1-20, 千葉大学文学部国語国文学会, 1997. https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/900052027/Gobun_25_hattori.pdf (accessed 2026-07-11)
- 独立行政法人日本芸術文化振興会,「出雲の阿国」,『文化デジタルライブラリー 歌舞伎事典』, https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/modules/kabuki_dic/entry.php?entryid=1013 (accessed 2026-07-11)
- 辻和子[著],『最新版 歌舞伎の解剖図鑑』, エクスナレッジ, 2022.

《一刻城について――模型と解説》
- 福井健二[著],『築城の名手藤堂高虎(図説日本の城郭シリーズ 4)』, 戎光祥出版, 2016.
- 梅原三千[原作], 西山光正[訳・編集],『実伝藤堂高虎』, 伊藤印刷, 2008.
- 深見和正[著],『津城――築城の名手 藤堂高虎集大成の城』, 深見和正, 2019.

《茶象学》

- アンソニー・ダン＆フィオナ・レイビー［著］, 久保田晃弘［監修］, 千葉敏生［訳］,『ここでもなく、いまでもない：スペキュラティヴな思考、不可能性、そしてデザインの想像力について』, BNN, 2026.
- 東亜天文協会［編］,『天界』, 第21巻第246号, 1941.
- Chao, Hsuan-Ling. Seeing the Starlight in Taiwan: The Establishment of Academia Sinica Institute of Astronomy and Astrophysics, Graduate Institute of Journalism, National Taiwan University, 2018.
- Shieh, Daisy. “Meet the Stars,” Taiwan Panorama, 1989. https://www.taiwan-panorama.com/en/Articles/Details?Guid=b6b8010e-aa30-4cef-b0af-24f987e30666&langId=3&CatId=8&postname=Meet%20the%20Stars (accessed 2026-05-10)

《UNSAID》

- 竹内正彦［監修］,『図解でスッと頭に入る紫式部と源氏物語』, 昭文社, 2023.
- 阿部秋生・秋山虔［著］, 今井源衛・鈴木日出男［訳注］,『新編 日本古典文学全集20 源氏物語(1)』, 小学館, 1994.
- キャッチコピー集めました。,「化粧品1~30」, https://catchcopy.make1.jp/?searchstr=%E5%8C%96%E7%B2%A7%E5%93%818 (accessed 2026-06-28)

FY2026 - Design in Parallel Worlds：もしも、○○が□□だったら?

［発行］
多摩美術大学 情報デザイン学科 情報デザインコース メディアデザイン領域
担当教員：高見真平
〒192-0394 東京都八王子市鑓水2-1723
https://www.idd.tamabi.ac.jp/design/

［発行年］
2026年8月

［印刷・製本］
グラフィック

［制作］
Edit, Design：高見真平
Cover：池田いぶき
Photo (pp. 48–49)：鈴木遼弥

本書収録内容の無断転載、複写を禁じます。
All Rights Reserved.